

平成 21 年度第 22 回税制調査会後の記者会見録

日 時：平成 21 年 12 月 15 日（火）19 時 04 分～

場 所：財務省 4 階 第 3 特別会議室

○峰崎財務副大臣

税制調査会の後に大綱の起草会合を開催いたしました。

今日は、菅会長代行はお見えになっておられませんが、藤井会長も、原口会長代行も後で来られましたし、かなり活発な議論が行われました。

まず、「はじめに」のところがボリュームが多かったのですが、現状分析、これまでの税制はどうだったのか、鳩山内閣になってからの対応といったことについて提起をして、「第 1 章 税制改正にあたっての基本的考え方」ということで、税制の現状や税制改革の視点について議論が行われました。

更に「第 2 章 新しい税制改革の仕組み」ということで、新しい税制調査会の設置や「ふるい」、租特透明化法案といったことについての議論が展開されまして、延べ 11 人の方に御意見を出していただきました。

鳩山政権としてどういう政府をつくっていくのかというイメージの問題や、番号制度の導入や歳入庁構想といったようなこと、特に指摘が多かった点は、現在の国民生活というのは非常に厳しい状況にある。更に経済の状態が、デフレ経済を含めて相当深刻な状態にある。そういった現状認識の厳しさをもう少し出す必要があるのではないかとといった点を中心にしながら、1 人で 2 回、3 回と質問される方もおられましたし、かなり活発な議論がありました。是非そういった点を含めて、これはみんなで作っていこうということで、今日出た意見によって文章をまた修正しながら、引き続き議論をしていきたいなと思っているところでございます。

おおまかな話しかできませんが、とりあえず以上で終わらせていただきたいと思います。何かあれば、今日も 4 人で皆さんの質問にお答えしたいと思います。

どうぞ。

○記者

もう少し具体的な委員の意見をお願いします。

○峰崎財務副大臣

具体的な意見というのは、先ほど申し上げたようなところなのですが、より国民に読んでいただけるものにしていく必要があるのではないかとといったような点だとか、これは文言の表現についての意見です。

内容についての意見は、税収の落ち込みの原因は一体どこにあるのかということについて、もっと深めたらどうだとか、経済の厳しさ、行き過ぎた規制改革やデフレの問題、廃業率よりも開業率の方が少ないという問題について意見がありました。

更に、デフレの問題が非常に大きかったのですが、「2. 税制改革の視点」の中では、

格差の問題に触れているけれども、これをどう解消していくのか、また、税における所得再配分機能の強化をどう考えるか、地球温暖化の問題についてどう考えるかといった意見がありました。

さらに、新しい公共という問題、セーフティネットという言葉はちょっと出過ぎているのではないかということや、政権交代が年度の途中で行われたにもかかわらず、年内編成ということをもうちょっとアピールしたらどうかとか、情報化という言葉については、必ずICTという文言をきちんと付けてほしいという提起などが出されております。

以上です。

○渡辺総務副大臣

序文ですので、20人の方がいれば20人いろいろ御意見がありますし、完璧な文章というのはなかなかできないので、そこは皆さんもものを書くお仕事だからわかると思いますが、そういうことでございます。

セーフティネットという言葉が4ページの中に6回も出てくるのではないかと、もう少し減らしたらどうかとか、もう少しコンパクトにした方がいいのではないかと、文章が役所の文章みたいで面白くないとか、読みにくいとか、もっと一般の人が読めるようなものにしろとか。

それは皆さん、文章を読めばそれぞれの意見を持っていますから、そういうことでございます。

○記者

今日の税調で中川文部科学副大臣が改めて提案された特定扶養控除の件なのですが、あまり議論が活発でなかったといたしますか、既に活発であって一旦蓋をしたから活発にならなかったのかなとも思うのですが、今後どのように扱っていくのでしょうか。

○峰崎財務副大臣

今ちょうど3大臣の会合が開かれていまして、その前段で川端文部科学大臣も是非意見を聞いていただきたいということで、今日の中川文部科学副大臣が出された提案を今議論している最中だと思えます。

ですから、ある意味ではマニフェスト玉というのですか、その玉はそちらの方で議論を詰めてもらいたいということで今論議が進められていると私たちは思っています。

○記者

確認ですが、川端文部科学大臣が3大臣会合に今合流していらっしゃるのですか。

○峰崎財務副大臣

前段でお話だけ聞くということになっています。あくまでも3大臣会合と私たちは理解しています。税調の延長ですからね。

○記者

若干遅れたので繰り返しになったら恐縮なのですが、今日話をされたのは、基本的にこの大綱骨子にある第2章までというような感じなのでしょう。

○峰崎財務副大臣

はい。「はじめに」と第1章、第2章です。

○記者

第3章のそれぞれの各項目については、こういう書きぶりにすべきだとか、そういうような話し合いというのは行われていないのですか。

○峰崎財務副大臣

「はじめに」から第2章の中でも出てくるのです。例えば納税環境整備の中の番号制をどうするかとか、番号制の問題以外にも歳入庁構想との関連を出したらどうだとか、税制のグリーン化の問題だとか、何点かここに出てくるのですが、それは更に議論を詰めて、また、さまざまなマニフェスト玉や3大臣に委ねている問題などもここにかかり入ってまいりますので、第3章のことも全く出なかったわけではないのですが、これはまだ一切文章化はできておりませんし、今日はこの議論に入っておりません。

○記者

今後の起草会合のスケジュールというのはどういうふうにお考えでしょうか。

○峰崎財務副大臣

明日以降、できる限り今週いっぱい頑張っていこうということで努力していますので、いつでも対応できるようにしておいてくださいということで、明日何時からどこでやりますというところまではまだ決まっておりません。

○記者

関連してですが、全体会合も同じように明日以降も断続的に開いていく形になるのでしょうか。

○峰崎財務副大臣

そういうことだと思います。いつでも対応できるようにしておいてくださいということだけは申し上げました。

それでは、以上で終わりたいと思います。